



きらきら Eye Land
JA庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第12号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

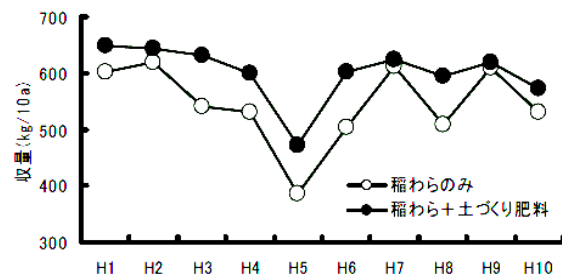
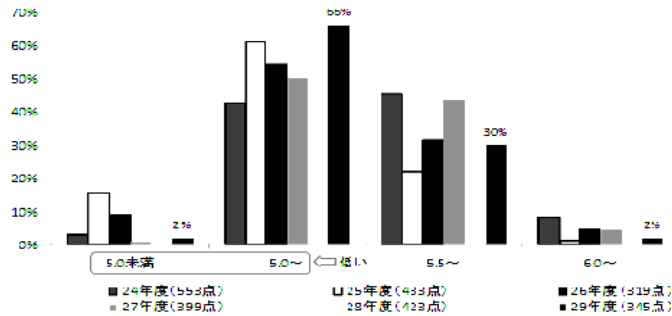
米づくりは土づくりから！ ～極端な気象への対策をしっかりと～

今年はお米の出穂がかなり早まったことから、刈取りも一週間程度早く始まり、9月末で概ね8割が終了しました。品質については出穂期の7月下旬から8月上旬に猛暑となったことから、胴割粒やカメムシの被害が散見されています。収量は品種間差はありますが平年よりもやや多く、くず米は平年並みと思われます。

全国的な米の需要の落ち込みから、令和3年産米の概算金は、一部品種を除き大幅に下落しました。生産コストの削減は大切ですが、極端な気象下でも作柄が安定し、品質・食味・収量のすべて揃った米の生産を目標に、土づくりを継続的に実施しましょう。

近年、土壌pHが低下し土壌の酸性化が進行していることから、土壌pHを高める対策が急務となります。酸性化した土壌の改善（地力の回復・向上）を図るため、土壌pHの年間0.1以上アップを目標に土壌のメンテナンスを図りましょう。
※当JAでは令和2年秋より「土づくり支援事業」を展開しています。積極的にご活用ください。

管内の現況：土壌pH5.3（平均） → 適正値：土壌pH5.5～6.0



○ pHは土づくりをしないと低下します！

pHが低下すると ⇒リン酸の肥料効率が低下
⇒稲わらを腐熟させる微生物の働きが鈍くなる

技、其の一 R4年産へ向けて作業開始です！

気象変動に左右されず、環境に十分配慮し、おいしくて安全・安心なお米として広く消費者から認知いただくためには、**土づくりを基本とした米づくり**が大切です。特に「つや姫」は高級ブランド米として食味の安定は必須です。積極的に施用しましょう。
○土づくり資材…pH矯正とケイ酸の補充

資材名	農力アップ	てんろ石灰	とれ太郎	天の恵み14号
使用量 (税込参考価格)	60kg/10a (@1,265円/20kg)	100kg/10a (@748円/20kg)	60kg/10a (@1,991円/20kg)	100kg/10a (@957円/20kg)
使用時期	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、秋施用 ・春施用の場合は耕起前までに散布 			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ケイ酸(20%)、苦土、微量元素を含有した新総合土づくり肥料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケイ酸(14%程度)や微量元素を含み、主にpH矯正を目的とし、持続性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・リン酸、苦土、ケイ酸(30%)、石灰を含んだ総合的な土づくり肥料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ようりんとかルが同時散布できる省力銘柄(ケイ酸29%)

近年、**田ワキが原因で初期の生育が停滞している圃場が散見されます**。田ワキを軽減するには、稲わらの腐熟促進が重要です。収穫後早めの秋耕が効果的ですが、秋耕が困難な圃場では稲わら腐熟促進剤を使用しましょう。特に「**つや姫**」・「**雪若丸**」は初期生育確保のために積極的に実施しましょう。

○稲わら腐熟促進資材（秋散布）…田ワキの抑制に効果的です。

資材名	アグリ革命	ワラ分解キング	石灰窒素
使用量 (税込参考価格)	2kg/10a (@2,794円/2kg)	10kg/10a (@2,112円/10kg)	10kg/10a (@3,586円/20kg)
使用時期	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、秋施用 ・春施用の場合は田植え1カ月前までに散布 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、秋施用 ・春施用の場合は代かき45日前までに散布後、速やかにすき込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋施用のみ ・散布は10月下旬まで
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・すき込みなしでもOK ・すき込みを行うとより効果的 	<ul style="list-style-type: none"> ・低温時でも稲わら分解に効果発揮 	<ul style="list-style-type: none"> ・つや姫圃場に施用する場合は、地力が高い圃場等には控える

※降雨後など、稲わらが湿った状態に散布するとより効果的です。
※特別栽培米に使用する場合は最寄りの営農課に事前にご確認ください。

効果的なケイ酸施用【基本施用（収穫後(秋)または融雪後～基肥施用時(春)）】

- ・ケイ酸成分で30kg/10aを目標に「少しずつでも」「隔年でも」施用することが大切！
- ・ケイ酸以外の成分の効果（pH矯正、稲わら腐熟促進など）や、散布の作業性から秋施用がベスト！
- ・稲刈り後、できるだけ早く施用するのが腐熟促進のために望ましいが、秋にできなければ春施用を！

（裏面へ続く）

＜ケイ酸の効果＞

水稻は、窒素の10倍ものケイ酸を吸収するケイ酸要求量がきわめて高い植物です。ケイ酸の施用により、次のような効果が得られ、気象変動時にはより効果が高まります。

- ①茎葉が固くなるため、病害虫抵抗性や耐倒伏性が向上。
- ②茎葉が直立し、受光態勢が良くなるとともに、根の活力が高まり登熟や品質が向上。
- ③無駄な水分の蒸散を抑え、高温や強風による水分ストレス、葉身の老化を軽減。
- ④pH改善効果があり、稲わらの腐熟を促進し、ワキの軽減が図られる。



技、其の二 大豆の刈取り適期を逃さない！

「リュウホウ」「エンレイ」については刈取り適期を迎えております。除草作業を徹底し、収穫に支障がないよう準備しましょう。

成熟期後20日を過ぎると、しわ粒が発生しやすくなり、急激に品質が低下します。高品質な大豆を収穫できるよう適期刈取りを徹底しましょう。



図 刈取り適期の目安

大豆収穫の目安（コンバイン収穫）

品 種	成熟期	刈取り適期
リュウホウ	10/ 1頃	10/ 8～21
エンレイ	10/ 3頃	10/10～23
里のほほえみ	10/12頃	10/19～11/1

★ コンバイン収穫のポイント

- ・コンバイン収穫の適期は子実水分が17%以下で、おおよそ成熟期後7日以降です。雑草や青立株は汚損粒発生の原因となるので、刈取り前に必ず抜き取りましょう！！
- ・刈取り時は土による汚損が発生しないよう刈高に注意しましょう。
- ・収穫した大豆については、施設への搬入（出荷）までの期間、変質等に十分注意し、一時保管をお願い致します。

【農業に伴う野焼き行為に対する注意・配慮のお願い】

例年、春と秋に、野焼きの煙や臭いについて苦情が多く寄せられます。野焼きは原則禁止されていますが、農業を営むためにやむを得ず行われるもみ殻の焼却（燻炭作り）等は例外として認められています。

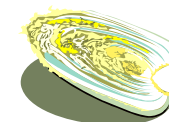
ただし、住宅の密集地・隣接地の場合は、行政指導の対象となります。こうした場所では、周囲への影響を考慮してできるだけ野焼きは避けるようにしましょう。やむを得ず行う場合は火災に留意するとともに、場所や時間帯、煙の量、風の向き・強さ等に注意し、近隣住人の迷惑にならないよう十分配慮し、適切な対応をお願いします。

柿の収穫が始まります！



- ①今年は、9月の平均気温が平年より低く推移したことから、着色が進んでいます。そのため、昨年より8日早い10月9日から柿の集荷が始まります。出荷基準に基づき作業を行いましょう。
- ②各地で、台風・ゲリラ豪雨等、異常気象が発生しています。天気予報に十分注意しましょう。また、雹害対策の為の防雹ネットを早めに設置しましょう。
- ③脱渋中の汚損果防止の為、果実の取り扱いには十分注意しましょう。
{降雨時に収穫した場合は、果実に付着した水分（結露）が汚損果の原因となります。十分乾燥させてから出荷しましょう}
- ④施肥は、10月上旬までに樹勢、土壌条件に応じて実施しましょう

通常の施肥の目安は、3年枝先端の新梢が、「平核無」で20cm～35cm、「刀根早生」で30cm～40cmの場合、窒素成分で12kg/10aです。



『娃娃菜』の管理について

現在生育中の秋冬娃娃菜は、天候にも恵まれ定植作業も遅れることなく進みました。また適度な降雨もあり順調に生育しております。例年より病害虫も少ないようです。今後は、次の点に注意してください。

- ・病害虫防除：コナガ・ヨトウムシは発生初期に防除し、食害（葉の穴あき）を防いでください。
- ・追 肥：結球前から液肥及びカルシウム資材を5～7日間隔で2～3回葉面散布を行い、葉の黄化や縁腐れを予防しましょう。
- ・排水対策：圃場の排水対策を徹底し、湿害による生育停滞や根腐れを防ぎましょう。
- ・出荷調整：泥汚れ等を綺麗に拭き取り、切り口の乾燥をしっかりと行いましょう。また、出荷規格を遵守し、収穫遅れの無いようにしましょう。